

雑木林ファンクラブ通信

住所: 〒 247-0013 横浜市栄区上郷町 1562-1 「横浜自然観察の森」 Tel:045-894-7474

炭焼き談話

2月としては異例の温かさ、前夜の春一番がもたらした天候異変で南風が吹き込み生暖かい朝の「泊り込み炭焼き」となりました。毎回の事ではあるが「山の神」への畏敬の念と「自分自身への戒め」を込め、本窯前で簡単な神事を執り行いました。

思い起こせば約 20 年前、「雑木林ファンクラブ」(発足前は「りんどうの会」)として 20 人足らずの会員(70%女性)で横浜自然観察の森園内に生い茂っていた東根笹(背丈の低い笹)を刈り払い、この地に元々あった野生植物(二輪草、狐のかみそり、山百合)等を蘇えらせようとして草刈りや不要な小径木と取り除いた。その結果作業から取り除いた材を「何か利用できないか」と考え、昔からこの地でも行っている「炭焼き」をしようと話しはまとまり始まったものである。

「炭窯」は今の物で三代目。初代は「横浜自然観察の森」に係っていた鎌倉に住んでおられた「宮沢先生」の教えを請うて「伏せ焼き窯」方式で行っていました。「伏せ焼き窯」とは「地面を少し掘り下げ、炭材を横並びに二三段積み重ね、上に粗朶木(ソダギ)を乗せ上からトタン板(波板)を被せて短い煙突と焚き口を作り、材の周辺及びトタン板の上をしっかりと土で固める」と言うところでも誰でも簡単に出来る炭窯でした。ただし炭焼きを始める炭焼き儀式は凝っており、火付けは「堅い木の平板と柔らかい木(杉材)」等を錐のように揉み込み、綿管(ワスガ)とか艾(ヨギ)の乾燥した物を周りに置き火付けをしたものであります。火燃やしの熱風を中に追い込むのは「団扇で扇ぐ」と言う人力そのものであり、順調に炭材に熱が燃え移っていくには数時間を要するというそれは大変な労力であった事が思い出されます。温度管理は測定計測器もない(これが全国一般的に行われている炭焼き方法)状態で行われるので、判断するのは炭焼きの時間、煙突から出る煙の量並びに色という具合で、順調に熱が炭材に移ってもそれからの「空気調整」も随分と苦勞しながら行ったものです。今回の炭焼きはその当時から比べると格段の違いで、合理化と温度調節も数十回の実績から簡単かつ確実にでき、出来上がった炭もきれいで未炭化も少なく良いことづくめの黒炭だったと感じました。煙から得られる木酢液もしっかりと回収され、楽しい炭焼きでした。

(記録は別紙のとおり)

最後に、炭焼き番で得した事は 2月 15日(日) 早朝 6時 02分、鶯の初鳴きを確認しました。
(鶯の初鳴き確認・村松氏同席) そこで一句。

しらじら すみ や けむり

白々と 炭焼く煙 ホーホケキョ

修平

1. 3月の活動報告

- ① 2月28日(土) 晴 24名 竹垣修理、本窯炭だし・竹炭材窯詰め、SF準備
- ② 3月7日(土) 晴 24名 炭材作り、檜材皮むき、竹酢液蒸留、SF準備
3月14日(土) 雨 11名 木工・SF準備
- ③ 3月21日(土) 晴 30名 ほだ木運搬と駒打ち(1000個)、倒木処理と運搬、竹炭材作り、午後運営会
他に、毎水曜日に準活動日として木工、SF準備。



左上:本窯に竹炭材を詰めているところ。
4月18日に炭焼き予定。朝早く点火し
夕刻遅くまでの一日で仕上げる上げる
計画

右上:檜材の皮剥きの様子。

下:クヌギ林に仮置きしていたほだ木を炭
小屋に回収しシイタケ菌の駒1,000個を
打ち込んだ。ほだ木は木の陰に置き笹を
被せて仮伏せ。

2. 3月度運営会報告

- ① 3月後半および4月度の活動計画確認(Ⅲ項参照)
- ② ZFCとしての活動安全管理確認(安全第一で活動しましょう)
- ③ 栄区主催キャンドルナイト(7月)参加可否確認:参加する(出品策は別途)
- ④ クヌギ林管理計画の策定について(工程表のタタキ案を提示)
- ⑤ 09年度より、偶数月の第3日曜日を活動日として追加(友の会承認)し、
森ボラ説明会を支援する(活動の様子を見て貰う)

3. 4月の活動予定

- ① 3月28日(土) 倒木処理、SF準備、午後・観桜会(会費500円)
- ② 4月4日(土) SF準備、クヌギ林下草刈り
4月5日(日) 10時 友の会総会(時間のある方は参加されたい)
- ③ 4月11日(土) SF準備
- ④ 4月18日(土) SF準備、炭焼(本窯・ドラム缶窯) 午後運営会(ZFC総会)、9号緑地の
伐採材の移動(林入口から公園境の柵まで)
- ⑤ 4月19日(日) SF準備(偶数月第3日曜;森ボラ説明会開催日)

- ⑥ 4月24日(金) 9号緑地伐採材の搬出、SF用作品等トラック積込み
- ⑦ 4月25日(土) スプリングフェア(横浜公園) 0800 現地集合
- ⑧ 4月26日(日) スプリングフェア(横浜公園)、機材等撤収炭小屋搬入
他に、毎水曜日は自主活動日として木工等行う。

4. その他

- ① 2008年度第4回炭焼きの記録を添付します。佐野さんがこの炭焼きの様子を書いて下さいました
観察の森での活動初期の頃の様子が窺えて面白く読めました。
- ② スプリングフェア・4月25(土) 26日(日) 於横浜公園。
25日夕刻、懇親会が開かれます。お忘れなく。
- ③ 大阪に近い京田辺市に引越しなされた真鍋さんが向うでの活動の様子を知らせて下さいました。
5月号を楽しみにして下さい。

・・・いつも皆様の活動の様子は冊子で読ませていただき楽しんでます。・・・こちらにきて、山のこと、植物のこと、手入れの仕方等知らないことは教わりながら身体を動かしています。身体を動かした後の心地よさ、次に何をしようかと思ひめぐらす楽しさは、やった人だけの特権かなと悦に入っているところです。・・・何よりも健康第一、安全第一で里山の手入れをがんばって取り組んでいきましょ。・・・

真鍋ヤス

2008年度第4回炭焼き記録（2009年2月14-15日）

- 1) 窯 詰 め 日時/天候 : 2009年1月17日(土)
- 2) 火入れ/窯閉じ 日時/天候 : 2月14日(土)曇後晴・15日(日)晴
気温 : 16°C(14日8:00) 21°C(14日17:00) 10°C(15日6:30)
- 3) 窯 出 し 日時/天候 : 09年2月28日(土)
- 本 窯 *炭材 クヌギ 142kgs トウネズ 155kgs 計297kgs *出炭量: 37.5kgs (殆どがクヌギ)
*収炭率: 17.7% 木酢液: 50 ltrs.

- ペース配分 ・口焚き 5時間分 ・安定熱分解 ?時間 ・煙温度急昇 ?時間
・精錬 20分 ・合計 31時間20分
- 最高温度(精錬前/後)・煙突 311°C/418°C ・窯中央部 447°C/724°C
- 注: ①トウネズは主として燃焼材として利用、炭は殆どクヌギから採れた
②炭の質: 良い炭が採れた。

- ドラム缶窯
- | | <左窯> | <右窯> |
|----------|----------------|----------------------|
| *炭材/重量 : | 竹材(再度焼直し・計量なし) | 竹材 42.5 kgs |
| *出炭量 : | 9.5 kgs | 10.5 kgs |
| *収炭率 : | % 竹酢液 1 ltr. | 24.7 % 竹酢液 1.8 ltrs. |

- 火入れ開始 2月14日 09:00 ○窯閉じ完了 左窯 14:40 右窯 17:30
- ペース配分 ・口焚き(窓枠取付まで) 左窯 1時間15分 右窯 1時間50分
・精錬 実施せず ・合計 左窯 5時間25分 右窯 8時間30分
- 最高温度(終了時) ・左窯 246°C ・右窯 253°C
- 注: 左窯 前回不良につき再加熱。 炭質 左右とも良い炭が採れた。

以上